

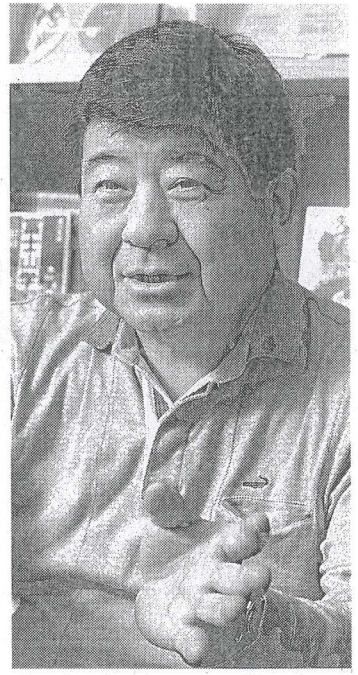
わたなべ 豊博さん  
渡辺 とよひろ

都留文科大学教授



身長183<sup>センチ</sup>、体重107<sup>キログラム</sup>の巨体で渡辺豊博教授(63)は「三島(静岡県)のジャンボさんの愛称で親しまれている。静岡県庁在職時代から行政と市民運動との連携に力を注ぎ、富士山の湧水が巡る水の都、ふるさと三島の水辺の環境改善に取り組んで源兵衛川を再生、またNPO法人「富士山クラブ」を立ち上げ、バイオトイレを導入した。

これまでの9つのNPOの事務局長をやってきました。現在の中核は、NPO法人グラウンドワーク三島での環境改善活動ですが、ほかにも三島ゆうすい会、NPO法人富士山測候所(富士山頂上での高所研究)を活用する会、NPO法人富士山エコネット(環境・登山教育)などがあります。



どの組織も重要な問題を抱えています。私にとっていま勝負どころにさしかかっていると考えているのが、世界文化遺産になった

### 環境改善、企業・行政・市民・NPOが連携

### 世界遺産認定、課題山積で逆に危機感

### 乱開発防止へ90年代からキャンペーン

富士山の諸問題です。昨年6月22日には、国連教育科学文化機関(ユネスコ)の世界遺産委員会で富士山が世界文化遺産に登録された。カンボジアのプノンペンに会場にいました。日本人で市民としては私と数人で、ほかは役人や報道関係者だけ。これまで深く関わってきた当事者として、富士山が世界からどのように

うち5分は称賛でしたが、あとの15分は宿題の指摘でした。具体的には、信仰と芸術への評価から①巡礼などの宗教的側面から昔の登山道をはっきりせよ②来訪者計画(どれくらいの人数が適正なのか)③安全対策④地震などへの危機対策⑤景観の整備(開発の抑止)――などでした。恥ずかしい現場の写真が映し出され、闇

をシグザグに登っていく姿に「とんでもない」という声もあがりました。私からすれば「恥のプレゼン」でした。これは「厳しい」な」と思いました。40分間の審議議論は、日本側のロビー活動が効いていたのか、「三保松原はすばらしい」の賛美の連続でした。これは登録されることが最大の目的であって、議論としては全く不毛なものでした。三保松原の逆転登録が話題となりショーと化した。そこに欠けていたのは真摯な議論です。厳しい現実の指摘を我々がいかに切実にとらえて、16年2月の第40回世界遺産委員会で「保全状況報告書」として先の宿題を克服し、だれにも認められるような解決策を提示できるのか。

# 富士と共に生きていく

①

(聞き手は編集委員 工藤憲雄)